第 2 回全体会協議を踏まえた対処方針及び計画への反映

No.	意見	対応方針・施策への反映	編-章-節 等
1	<p>合計特殊出生率について、2015 年までは県平均値を上回っていたが、2016 年に急激に下降し、以降県平均値を下回る状況となっている。この要因をどのように分析しているか。</p>	<p>関係課への聞き取りに加えて、あらためて統計数値等を検証しましたが、出生数が減少している結果という以上の特別な要因は確認できませんでした。</p> <p>また単年度ではなく、厚労省発表の 5 か年区分合計特殊出生率によれば、2013-2017 年区分においては長野県が 1.57 に対し、上田市が 1.55。2018-2022 年区分では長野県が 1.47 に対し、上田市が 1.45 とほぼ同水準で推移していることから、特別に上田市のみ大きく下降している状況ではありません。</p> <p>いずれにせよ、近年加速している、出生数の低下を改善していくことが急務であり、「重視する視点」にも掲げています『子どもまんなか』の視点を各施策分野でしっかりと意識してまちづくりを進めることが必要であると認識しています。</p>	全体
2	<p>基本理念について、基本理念は大きな枠組みとなるものであり、市民憲章や自治基本条例が関わるという点は理解するが、例えば DX の推進やダイバーシティなど過去には無く、今現在、未来のために取り組んでいる内容を盛り込むことで基本理念が 10 年後まで浸透していくものになるのではないか。</p>	<p>基本理念はまちづくりを進める上での大原則にあたるため、ご指摘の「DX 推進」や「ダイバーシティ」の考え方については、『重視する視点』に盛り込むこととします。</p>	基本理念

3	<p>「重視する5つの視点」について、若い女性の地域外への流出が課題となっている中で、「女性が自分らしく生きられる社会」をどう作るかということが重要なテーマ。単に市民協働の中の男女共同参画ということに留まらず、『ジェンダーギャップ解消』として独立させて「重視する視点」の一つに位置付けてはどうか。</p>	<p>「ジェンダーギャップ解消」については、女性だけでなくすべての人が自分らしく生きられる社会づくりであり、若者に選ばれるまちづくりという面からも重要であると認識しています。</p> <p>「ジェンダーギャップ解消」について、まちづくりを進める上で社会一丸となって重視すべき視点の一つに加え、『重視する6つの視点』に変更します。</p>	重視する視点
4	<p>「重視する5つの視点」について、ジェンダーギャップについても意見があったが、男性、女性に限らず、マイノリティ（LGBTQ、外国籍）の方々も活躍できる社会づくりの視点を盛り込むべき。</p>	<p>マイノリティ（LGBTQ、外国籍）を含めすべての市民が活躍できる社会づくりは重要です。『重視する視点』の前文に「性別や年齢、国籍などに関わらず、誰もが自分らしく生きられる」社会の創出を目指すことを明記します。</p>	重視する視点